

失われた一匹の羊－地球惑星

八重山石垣島で伝道していた時でした。まだ教会堂はなく、一軒家を借りて集会をしていました。礼拝の日ではありませんでしたが、あるオーバーちゃんが教会にやってきました。「ここは、教会ですよ。神様を拝みたいのですが、どこにいますか、拝み所はどこにありますか」と聞かれました。「私たちの神様は天におられますよ」と答えましたら、納得のいかない顔をしてオーバーちゃんは帰られました。

聖書にこう書いてあります：「この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない」使徒 17:24

人間は、目に見える神を拝みに集まってくる習性があるようです。バチカン神殿やメッカ等々と。しかし、どんな神殿、神社、寺院にも神はお住みにならないと聖書は言っています。

では、どこに神はおられるのでしょうか？

イザヤ 57：15 いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、「わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕けたる者の心をいかす」。

聖書は、神がおられるところは？神の御座はどこにあるのでしょうか？

この聖句によると神の住みたもう所は2か所あると言っています。

- ① 永遠に存在する、聖なるお方は、「いと高く、いと上なる」お方は、非常に高い、全宇宙の中心に住んでおられます。
- ② そのお方が「心砕けて、へりくだる者と共に住み」たもうというのです。

私たちの神様は、王や皇帝、大統領や支配者のように、ころころ変わりもしないし、場所も変わりません。「とこしえ」の神であられますから、初めもなければ、終わりもありません。任期もありません。聖なるお方ですから汚職は絶対にありません。永遠に「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな」と千々万々の天使たち、全宇宙の住民に賛美されるお方です。

その絶対唯一の神様の君臨したもう領域は、ある讚美歌作家は、「果てしも知られぬあまつ海原」と歌いました。讚美歌 74。

イエス・キリストがどれほど高いところから下ってこられたか、地球がどれほど小さな惑星かを知らないで、神の愛、贖いの意味、謙遜、へりくだりを理解することはできません。宇宙はとてつもない広さで有限な人間からすると広大無辺と表現するしかありません。そして、その中には地球の直径の約 109 倍もの大きさを持つ「太陽」さえはるかに凌ぐような大きな星も、数多く存在しています。



私たちの住んでいる地球と他の星を比べてみましょう。私たちは、毎日の忙しきで夜空を見上げることはなかなかありません。あまりにも人間の知恵と能力にうぬぼれて地球がまるで宇宙の中心であるかのような錯覚さえ持つことがあります。

まず、太陽系にある星を見てみましょう。

私たちが住んでいる地球は、太陽系の一つの惑星です。太陽の周りをまわっている惑星が八つあります。水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星。

その中で一番大きいのは木星で、地球が1400個分入るほどの大きさだそうです。

私たちが住んでいる地球を含む太陽系は、巨大な銀河系の中にありますが、またその巨大な銀河ですら無数に存在します。

よく「星の数ほど…」と言ったりしますが、そもそも、この宇宙にはいったいどれほどの数の星があるのでしょうか。

太陽のように自ら光り輝いているのを**恒星**と言い、**惑星**はその光を反映する星と言います。

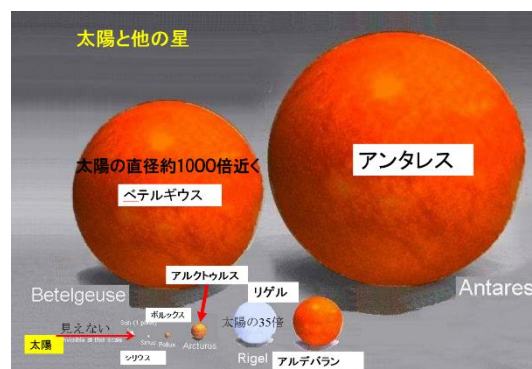
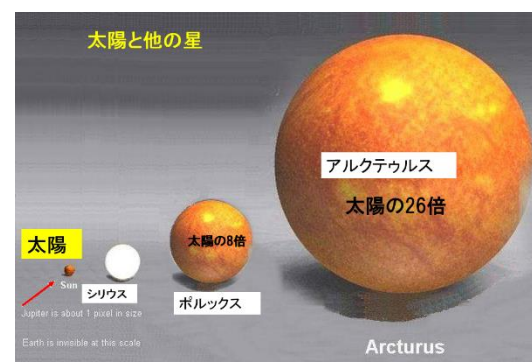
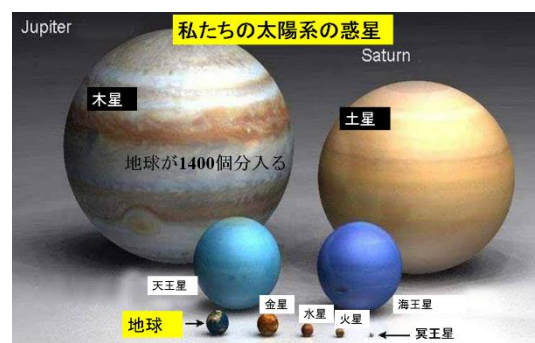
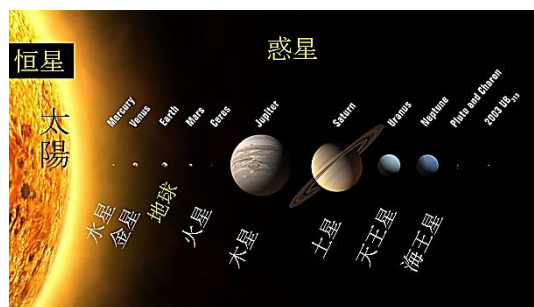
太陽のような恒星が銀河系宇宙にどれくらいあるでしょうか。

恒星だけに限ってみても、太陽系を含む銀河系の中には**2,000億～4000億個**もあると推定されています。

オリオン座の**ベテルギウス**は太陽の**1,000倍**、さそり座の**アンタレス**でも太陽の**700倍程度**とされています。この両者はどちらが大きいのか、はっきりしたことはわかりません。

さらに、**宇宙の中に1000億個以上の銀河があると推定されています！**銀河とは、島宇宙のことで、その中には数億、いや数兆の星があるそうです！

ビデオを見て感じたことは、二つ：



① 地球はどれほど小さいものか

② 宇宙はいかに広大無辺であるかということです。

これらを造られた偉大な創造主を認めないで、知恵と能力を誇る人間に対して聖書は「天に座する者は笑い、主は彼らをあざけられるであろう」詩 2:4 と言っています。

とてつもない大きな星々、その美しさ、その定められた軌道を走る秩序にダビデは、歌いました：「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす」と。詩篇 19:1



・またユダヤ人の学者エズラも言っています：「あなたは、ただあなたのみ、主でいらせられます。あなたは天と諸天の天と、その万象、地とその上のすべてのもの、海とその中のすべてのものを造り、これをことごとく保たれます。天の万軍はあなたを拝します」と。ネヘミヤ 9:6

誰がこれらのものを創造したのでしょうか？

イザヤは答えて：40:26 「目を高くあげて、だれが、これらのものを創造したかを見よ。主は数をしらべて万軍をひきだし、おのおのをその名で呼ばれる。その勢いの大きいなるにより、またその力の強きがゆえに、一つも欠けることはない」。

創造者イエス・キリスト

ヨハネ 1:3 「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。イエスは万物の創造者であった」。

コロサイ 1:16 「万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである」。

天から地球へ

イエス・キリストは、このような宇宙の中心、神の御座からご自身「天から下ってきた、天からつかわされた」と言われました。

地球が造られた目的：

イザヤ 45:18 「天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、「わたしは主である、わたしのほかに神はない」。

創造当初は、「はなはだ良かった」と言われた、完全な美しい地球でした。創世記 1:31

しかし、この地球は、滅亡の寸前にあると聖書は言っています。なぜでしょうか？人間の罪の故です。

・黙示録 11:18 諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました。

人間が創造主に背を向け、罪のゆえに地球は滅ぼされる運命になっているのです。

神が人間を造られた当初は、どうだったのでしょうか？人間が造られた目的は何だったのでしょうか？

・詩篇 8:3-6 人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。ただ少しく人を神（天使—欽定訳）よりも低く造って、栄えと誉とをこうむらせ、これにみ手のわざを治めさせ、よろずの物をその足の下におかれました。

・イザヤ 43:7 すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」。

・ヘブル 2:6 「聖書はある箇所、こうあかししている、『人間は何者だから、これを御心に留められるのだろうか。人の子は何者だから、これをかえりみられるのだろうか。あなたは、しばらくの間、彼を御使たちよりも低い者となし、栄光とほまれとを冠として彼に与え』」

人間が造られた当初の状態に回復されるならば、この小さな地球惑星も回復されることになっています。

回復される地球

・黙示録 21：1-5 「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。

また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。



また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。

すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。

驚くべき贖罪

「あがないの働きは完成される。罪の充満していたところに神の恵みがもっと充満する。サタンが自分の働き場所として主張していたこの地上そのものも、ただあがなわれるばかりでなく、また高められるのである。罪ののろいのために神の輝かしい創造における一つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる」 1 希望 13 。

人間が回復されなければならない！

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

・黙示録 1：5,6 わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権

力とがあるように、アアメン。

・ヘブル 2:6 「人間が何者だから、これを御心に留められるのだろうか。人の子が何者だから、これをかえりみられるのだろうか。あなたは、しばらくの間、彼を御使たちよりも低い者となし、栄光とほまれとを冠として彼に与え、

エペソ 5:26、27 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

・エペソ 10、11 それは今、天上にあるもろもろの支配や権威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、わたしたちの主キリスト・イエスにあって実現された神の永遠の目的にそうものである。

イエス・キリストの犠牲と全能の仲保者の働きによって、至聖所において最後のあがないの働きがなされ、罪は除去され、人間の心が完全に回復される！

そしてキリストの再臨の時に、人間の朽ちゆく体は不朽の体に栄化されます。

そして千年期の後にこの地球は火で焼き尽くされ、万物更新されると聖書は教えています。

至聖所のイエス

イエス・キリストがこの地上に来られたのは、人間を回復し、地球を回復するためであった！

・イエス・キリストはどれほどの高いところから、どれほど低いところまでくだってこられたことでしょう！だから「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」(使徒 4:12)とペテロは聖霊に満たされて叫んだのです。

なんという愛でしょう！なんというへりくだりでしょう！



パウロの实际的勧告

・ピリピ 2: 6-11 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:1—そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ

思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい(互いに自分自身よりも他の人を高く評価しなさい—祥訳聖書)。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:9—11 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめ、また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

※我々もキリストと共に己を低くするなら、神はキリストと共に我々をも高くしてくださる！

ルカ 15 章の失われた羊のたとえは何を教えているか？

1. この宇宙の失われたただ一つの地球惑星の救済

実物 170

「キリストは、この道に迷った羊によって、個々の罪人だけでなく、反逆して、罪に傷ついたこの世界をも描かれた。この地球は、神が統治しておられる広い宇宙の1原子に過ぎない。しかし神の目にはこの道に迷った1匹の羊である墮落した小さな世界は、おりからさ迷い出ない99匹にまさって、尊いのである。天の宮廷の愛された司令官、キリストは、この失われた1つの世界を救うために、その高い地位からくだり、天の父とともにもっておられた栄光をお捨てになった。彼は天の罪なき世界、すなわち、彼を愛していた99匹をあとにして、この世界に来られて、「われわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ」(イザヤ 53:5)。神はいなくなった羊をまた迎え入れる喜びのために、み子を与えるとともに、ご自分をお与えになった。「わたしたちが神の子と呼ばれるためにはどんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」(Iヨハネ 3:1)。彼は十字架を忍ばれ、恥をもいとわれなかつた」。

「しかし、贖罪の計画は、人類の救済より、もっと広く深い目的をもっていた。.....救い主は、十字架におつきになる直前に、その大犠牲が、人間だけでなく、他の諸世界に住む者たちに与える影響を予見して、こう言われた。『今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は追い出されるであろう。そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう』」(ヨハネ 12:31, 32)。あけぼの上 61、403

・1 希望 13 「あがないの働きは完成される。罪の充満していたところに神の恵みがもっと充満する。サタンが自分の働き場所として主張していたこの地上そのものも、ただあがなわれるばかりでなく、また高められるのである。罪ののろいのために神の輝かしい創造における1つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる。神のみ子が人のかたちをとり、栄光の王が生活し、苦難を受け、死なれたこの地上—ここに神が万物を新たにされる時、「神の幕屋が人とともにあり、神が人とともに住み、人は神の民となり、神みずから人とともにいま」すのである(黙示録 2:3)。そして永遠にわたって、あがなわれた者は、神の光の中を歩むとき、言いあらわしようのない神の賜物であられるイシマヌエル—神われらと共にいます—について神を賛美するのである」。

2. 失われた一人の魂のためにも死なれた！

地球に一人しかいなかったとしても、その罪びとのために創造主、イエス・キリストは天から下ってこられて、ご自分が身代わりとなって死ぬことになっていたのです。

讃美歌 332 「主はみ父のもとを離れ、わびしき世に住みたまえり、
かくもわがために栄を捨て、我は主のために何を捨てし」